

令和7年度（2025年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

【A日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の意図

問題1

問題1は、刑法総論および各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。具体例を設定させるのは、適切な具体例の設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、狭義の共犯である幫助の一大論点である因果性、特に単独犯の因果関係と異なる点に関する基本的な理解を問うものである。幫助はすでに犯罪を行うことを決意している正犯に対して行うものであるから、単独犯と同じ因果関係、すなわち「あれなくばこれなし」の関係を幫助において問うことができず、多数はその内容を「促進関係」にまで緩和する。以上の内容を中心とした基本的理解を問う。(2)は、財産犯における基本的概念を問うものであり、両概念の基本的内容が正しく摘示できているか、背任罪のみ全体財産に対する罪、それ以外は個別財産に対する罪であることを正しく理解しているかを確認する。

問題2

問題2は、刑法総論上の典型論点である原因において自由な行為と、刑法各論上の典型論点である事後強盗罪における窃盗の機会の問題を組み合わせた事例問題である。前者については、行為と責任の同時存在の原則が必要であるとしつつも、適正な処罰の必要性からその例外をどのように理論的に肯定するか（あるいはしないか）についての正しい理解を問うものである。後者については、窃盗行為がいったん終了し「安全圏」に至った行為者による暴行・脅迫が窃盗の機会であるといえるかという基本的な点に関する理解を確認する。